

選択的支出が 津で 58%増加

総務省が五月に発表した家計調査で、各都道府県の県庁所在地別に今年一～三月期平均の一世帯当たりの支出金額を見ると、津市は前年同期比で32.9%増と大幅に増え、六・四半期（一年半）ぶりにプラスとなった。

支出金額が増えた最大の要因は、「選択的支出」の増加だ。選択的支出とは、旅行レジャー費や月謝類、教育費といったぜいたく品と見られる品目への支出。食料や家賃、光熱費、保健医療サービスなどの必需品的な性格が強い「基礎的支出」とは区別される。

選択的支出は58.0%増で、六・四半期ぶりに増加。飲酒代を含む「外食」や「宿泊料」「パック旅行費」をはじめ、「月謝類」や「映画・演劇等入場料」「ゴルフプレー料金」「スポーツクラブ使用料」などは、購入頻度と支出金額の両方が増えた。新型コロナウイルス感染症の五類移行による経済正常化への期待などから、消費行動が活発になっているようだ。

一方、基礎的支出は15.0%増で、四・四半期連続の増加だった。「食料」や「光熱・水道」は、購入頻度は減ったものの、支出金額が増えており、物価高の影響がうかがえた。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子）

津市の1世帯当たり支出金額 (2023年1～3月期平均、前年同期比)

	購入頻度	支出金額
消費支出	▲4.4%	32.9%
食料	▲3.4%	8.8%
外食	49.9%	61.2%
光熱・水道	▲4.2%	10.2%
授業料等	56.9%	18.3%
補習教育	2.2倍	2.8倍
宿泊料	3.9倍	2.8倍
パック旅行費	8.5倍	2.7倍
月謝類	96.5%	86.0%
映画・演劇等入場料	2.5倍	3.1倍
ゴルフプレー料金	23.5%	4.1倍
スポーツクラブ使用料	3.7倍	3.1倍

※2人以上の世帯、▲はマイナス。
資料：総務省「家計調査」を基に作成

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2023年6月8日